

藤川晴水、高橋狸水、鈴木琢水、舟井慶一、鈴木謙水、敦盛、梅沢明水、実盛、山田幻水、吹雪の敵、中谷襄水、羅生門、山口速水、道成寺、鈴谷六水、木村重成、小山田賞水。外に詩吟詩舞六題。

物故者追悼前琵琶演奏会

十一月二十六日(休)昼零時半東京日本橋第一証券ホール、主催藤巻旭鴻会。平田旭舟、鈴木旭美、浜田旭鸞、実岡旭操、半田明正の五物故者慰霊追悼演奏会。竜の口、藤巻旭星、藤巻旭鴻、盲僧琵琶の幻想、旭鴻、旭紅、旭昇、旭花都、旭陽、旭薫、旭楓。

晴風会秋の大会

十一月三十日(日)朝十時東京中野区文化センター、晴風一門会。同後援会共催(〇〇〇〇)巴盛会。重衡、望月啞江、白虎隊、岩崎、月下の陣、菅野、五條橋、太田尾、屋島の誓、諸遊、衣川、本橋、城山の月、竹内、川中島、福島脹水、野口嶮水、大原御幸、高田堂水、設楽ケ原、青木晴城、湯陽江、大関英子、修善寺物語、杉山雅俊、泊り舟、緒方晴舟、掛合敦盛、山下晴楓、会主浅野晴風。(以下来賓)天目山、山崎典水、茨木、押川旭葉、武

将正宗、水藤五郎、安達ケ原、鈴木流泉、小督、谷津水。外に詩吟八題。

日本の芸能近代化特別公演

十一月三十日(日)昼夜二回東京国立教育会館虎の門ホール、主催日本伝統芸能同文会。後援東京都(各三、五〇〇円)。琵琶、箏の彼方(一)(美之助)石田脩水、(禅海)長谷川錦舟、(絃)都錦穂、尺八戸室清山の外桜間会二十一人の能楽巴、竹本朝重社中三人の義太夫新版歌祭文、日本舞踊各流派合同数十人の創作舞踏劇元禄模様戯姿絵七場が公演された。

フジ才琵琶放送

NHk・FM(夕五時)で十一月二十日(休)筑前「小督」を柴田旭堂(琴伴奏小林早苗)、錦心流「城山」を植村寛水、同二十七日(休)筑前「羅生門」を押川旭葉、錦心流「竜の口」を小山田賞水、十二月十八日筑前「名残りの桜」を金子旭昭、錦心流「別れの盃」を山口速水の各氏が放送された。

大阪文化祭賞

五十年秋の大阪文化祭に参加した催し物百四十二件の内優秀十九件が厳選され文楽、歌舞伎、邦舞に伍して筑前琵琶山崎旭萃リサイタルに於ける「安宅」演奏の受賞が決定し、十二月十日贈呈式が大阪キャスルホテルで開かれた。

(予告)

- 京都琵琶協会一月例会 一月十一日(日)昼一時会員矢吹旭美津女史宅。五十年年度会計報告、役員改選等あり、全員集合のこと。
- 浅野晴風会新年演奏会 一月十七日(出)十一時、十六時半、東京杉並区立高円寺会館
- 鈴木流泉氏主催琵琶人の集り 一月二十五日(日)昼一時、六時東京新宿洲鳳会館。

あき

巻頭の型に嵌った極り文句の堅苦しい年頭の辞を省き本欄で謹んで新春の御慶を申し上げ併せて各位のご健康と本年の御活躍を念願いたします。●年末の長期郵便ストで本号の編集締切りが予定通りにゆかず焦慮の甲斐もなく最初の企画に反したお粗末な新年号となってしまった。●運輸大臣はストによる鉄道の損害賠償を労組に請求の告訴をするとテレビや新聞で報じているが京絃社も郵政省に対して同様の訴えを起したいと思っております。●新年号にふさわしい二、三の有意義な御寄稿や筆者が書きたいと計画していた事など総て画餅に帰し次号以降でこの償いをして読者諸君にお詫したいと思っております。どうか御寛容下さい。

昭和五十一年一月一日発行(非売品) 編集者 植村 真 水 発行所 高槻市津之江北町一ノ三番 電話 〇七二六(八五六)五二二番

琵琶 機関紙

京

絃

第二五九号 京絃社

我が道を行く六十五年 (三三)

西郷 天風



斯してひとかどの図案家ともなれば一戸を構えねば面目がたぬと云うので、誰の世話だったか忘れたが足利町の中心に近い処に、其名も雪輪町と称する平家建四十二戸の団地があり、その中の一軒に納まることになった。

この四十二戸の建築様式は、すべて八畳の座敷を中心に六畳四畳半、それに玄関の三畳と云う小じんまりした一戸建て、新参者の私を加えて三軒の図案家以外はいづれも自前芸妓の家か、おめかけさんの樓家とのことであった。その頃足利の図案家で、月収三百円以下の人というのは殆んど稀で、この程度の家に住むのは下の方だった。

大体足利の織物は殆ど絹綿交織で、いわば絹物まがい、即ちイミテーションながら、その柄模様は於て全国的に追従を許さぬ定評があり、殊に大正八・九年頃大島紬大流行時代の如き、正に本場物を遙かに凌駕する人気を拍したのも優れた柄模様によるもので、それだけ足利には優秀な図案家がいた訳だが、特

に価格が庶民向であったことが大なる原因であったといえるだろう。

因に足利の大島紬は総て捺染式のもので、或薬剤により脱色する色素で染あげた糸と、然らざる糸と交互に織り上げた布地の上に、汝紙製の厚紙に小穴をあけて描かれた模様の型紙を乗せ、脱色剤入りの糊を捺込み蒸気にとさらせば、一穴毎に脱色した糸と脱色せぬ糸とが交互に現われ、さながら丹念に織合せてあらわした模様の如く出来上る。従って細かい模様を織り合せる技術も要せず、至極安直に精巧な織物が出来上るのである。

さてその図案家達は月六催の市、即ち毎月五日目毎に開かれる市の直後、各織業者を訪問して新傾向の地色や柄模様の図案を売込みに奔走する、亦それによって新流行が発成される訳で織業者はこれを無視することはできず、場合によっては自家に不要な図案でも他家に利用されては不利の感があればそれを買取ってしまうこともあり、従って新参者の私

も一と市五十枚前後の売上は必ずあったし、一枚の価格も上位の一円五十銭で月三百円は下らず、今日の貨幣価値に換算すれば正に三十万円にも相当する収入で恵まれた生活だった。その上一人暮らしの呑気者という気安さもあって、琵琶の稽古は名ばかりの若人が五名程居り、毎日入長りて私の生活にうるおいを添えて呉れるのであった。それは駅の運送屋の俵を筆頭に織物整理業、仲買人、染色業、魚屋等の俵達で、それ等各市ごとに変わる流行色の基準となる「地色」を初め、模様や色彩の傾向など織業界の情報をもたらすので私にとっては居ながらにして其動向が判り、洵によい伴侶となっていた。

それ等の情報に基づき毎日三時間前後を図案製作に没頭し、一日約三十枚を限度としてあとは夕食時に参集する門弟を引連れ、所定の小料理店に押かけるのが日課で、週二日の稽古日以外は殆どトランプのブリッチに興じ、時には徹夜も稀ではなかった。従って朝寝が習慣となり、昼頃私の知らぬ間に五人の中の誰かがやって来て、飯炊から総菜まで整えてから私を起して呉れるのだが、それは五人が適当に当番を取きめておたらしかった。

或夜それは夏の半ばの頃だった。五人がそるって賑やかにやって来た、手には各々思い付きの品を持っていた、青い酒のペパーミント、黄のキューソー、赤のストロベリー等当時若人間に流行の気分をひたろうと云うのである。やがていよいよ興に乗って来た矢先

京都北野の大茶会

千利休(上)

辻 旭城



き電燈が消えた。しかも仲々つかない、一同腹だたくった折窓がわが明るいのには気がついた、誰かが戸を開けて見れば陽は既に高かった、思えば御近所は定めし迷惑だったろうと爾後慎むことにしたが、それから数日後魚屋の仲が当番の朝だった。慌しく私を起し玄関にこんな物がとほゝ笑みながら差し出す障子紙には筆太に「吾気倶楽部」と書いてあり、其書体も洵に美事だったので、玄関の間に久しい間貼り下げて置いたものだった。

この家の玄関に向って、左は低い土堤を隔てて堀川が流れ、右はおめかけさんの家に接し、小道を隔てた向いの家は「小竹」の軒燈もなまめかしい自前芸妓の家で、常に老母が一人留守番だった。そこには電話があり時々取次ぎや呼出しの厄介になる便利な家でもあった。

この団地の家にはいづれも同じ形の脇掛窓があり、隣りの脇掛窓と私の画室兼茶の間の脇掛窓とは相接しており、よく顔を合せるのでつい懇意になり、招かれて好物のコーアの馳走に預かる事度々だったが、之が亦なめらかで特別美味だった。このコーアと云うものは、先づ小鍋に水でとき、それに砂糖を加え弱火にかけて小泡が表面に充満する迄、丹念にかきまぜるのが美味のコツであることを教えられた。亦その頃の私は前術の如く毎日の食事を門弟の好意に任せきりだったのでつい偏食となり、それが祟ったのであろう、からだ全体がだるく気力も失せて、画筆を執るのも億劫となってしまうた。

天正十年本能寺の変で信長が自刃して、天下の権勢は秀吉に受けつがれ、同十三年三月八日、大徳寺総見院で開かれた茶会には、秀吉の命によって利休が集めた宗匠は堺衆二十数人、京衆五十余人という大がかりなものであった。

また秀吉が内大臣関白に栄進したお礼の、宮中の小御所の茶会には、利休は亭主となった秀吉の後見役をつとめ「利休居士」の号を勅賜された。それ以来利休は天下一の茶の湯の宗匠とうやまわれ、その権勢は全国の大名を圧倒して「宗易(利休)ならでは関白さまに一言も申し上げる者なし」とまで云われた。主権を握った秀吉は、宗久、宗及、利休その他の堺の茶人を茶頭として多額の知行を与えたが、わけても利休には三千石を以て遇し、大茶博士に任命しているが、これは利休の力を巧みに利用するがためであった。

その頃九州の島津氏は大友、竜造寺らを盛んに攻撃したので、たまりかねた大友宗麟は遂々上洛して秀吉の援けを乞うた。いつものように利休の茶会が開かれたが、そのあとで秀吉の弟大納言秀長が宗麟の手をとって「内

内のことは利休、表向きは自分は心得ている、悪いようにはしないから安心されよ」と云った、秀吉の腹臣として活躍した利休の重要な地位がうかがわれる。

太閤は細川幽斎(利休の弟子)と利休の二人に命じ、島津の重臣伊集院忠棟に降伏を奨めさせた。伊集院からこれを聞いた島津は、「成り上りの秀吉如きは何で降伏するものか」と反抗したので、秀吉は遂に九州遠征の軍を起すことになった。

十一月には利休を通じて九州博多の豪商神谷宗湛がやって来た。島井宗室に劣らぬ豪商で且つ茶人である。そこで神谷宗湛を主客に大阪城の大茶会が開かれ、秀吉をはじめ利休、津田宗及らの堺衆が皆出席して盛んな茶会となった。九州遠征ともなれば大量の武器や兵糧の調達輸送が絶対的、それに堺、博多の商人の協力を必要とする。

又豪商達は武器や兵糧の売込みの外輸送の儲け、更に平定の晩には市場の利権、貿易の特権をも得ようとする。秀吉側近の利休は堺商人の代弁者でもあり、博多商人の仲介者でもあったのである。

その後秀吉は太政大臣に栄進、「豊臣」の姓を賜わり、翌天正十五年三月、秀吉自から九州遠征軍を率いて大阪を進発した、騎馬三千を加えて総兵力二万五千余、金銀を積んだ馬十二頭、これは軍需品や兵糧の現地調達に当てるためであったが、外に本願寺門徒や京、堺の豪商、女房衆まで従え堂々たる出陣であ

つた。

こうしてその月の二十五日赤間関(下関)に到着、改めて大軍を編成し陸海から破竹の勢いで南下したので、流石の島津も五月八日遂に秀吉の軍門に降った。この時利休を始め京、堺の豪商、茶人を引つれ、筑前箱崎松原で博多の豪商茶人と大茶会を開いた。この大茶会は何を意味する茶会であったのか。

秀吉の九州遠征軍が勝利を治めて帰ると聞もなく、十月一日北野の大茶会が開かれた。命を受けた利休は、各地の数寄者に総ての茶具を準備して上洛すべき旨を伝え、堺衆は一所たるべき旨を通じた。場所は北野天満宮の森を舞台にした大がかりな野外の大茶会であった。京都、大阪、堺には予告の高札を建て、茶道に心ある者ならば若党、町人、百姓を問わず参加せよ、釜一つ、つるべ一つ、のみも一つでもよいから持って出よと呼びかけた。そして準備と運営には利休を始め当時の代表的茶人が総がかりであった。

秀吉はこれら無数の茶席を、金襴の衣服に真紅の頭布をかぶり、茶席をのぞき込んで一服の茶を所望して愛嬌をふりまいた。これは秀吉が天下の統一者として、その豪華な前代未聞の大茶会を誇示したもので、又これを機会に諸家秘蔵の名茶器を巻き上げるためだといふ噂もあった。利休は秀吉にくつついてそれを演出した。

秀吉の茶は豪華絢爛の茶であり、利休の茶はわびとさびの茶である。秀吉は茶会を利用

して天下統一者としての自己の権勢を誇示するものであり、また武將、町人の懐柔、陰謀密議の茶であった。之に対し利休の茶は「心入りの深さを高唱し、茶道の心は庶民的な「わび」と「さび」の味わいに徹することを茶道の精神とし、当時「大名茶」と呼ばれる大名や豪商のぜいたくな茶の湯を外道とした。茶室は出来るだけ狭いもの、茶碗も信楽焼のよいな石粒のみえる無格構で素朴なものほど良いとした。また「わび茶の湯」の精神は、骨肉相喰む乱世に弱者同志の連帯感を育て、富貴や権力にも冷たく抵抗する不屈の精神をもっていた。

秀吉の築いた大阪城は本丸、二の丸、三の丸にわかれて華麗壮大を極め、本丸の中央には八層の天守閣が聳え、本丸には北に山里丸、南に桜門、北に山里門があった。この城内に秀吉の「黄金の茶室」と「利休の茶室」それがどうして表裏一体となつて、こゝまできたのであろうか。相反する茶道の心の持ち主を如何に見ればよいのか。



第八回「日本の宴」

日本民主同志会本部主催の首記が十一月二十四日(休)昼夜二回に亘り京都市の岡崎会館第

一ホールで三木首相、永井文相、福田副総理、京都府知事、京都市長その他多数の著名人の祝詞や挨拶を受けて盛大に開催され、三絃、尺八、琴等の伴奏や立方付きで地唄、長唄、常盤津、清元、日舞など、また日本楽器による幻想曲や島倉千代子の歌謡「ブルデンショウ」など多彩な公演で、琵琶部は青柳吉之助一門の琵琶歌舞伎「五條橋」「坂本竜馬の最期」(琵琶井坂旭良、佐藤旭天紅)が披露されたが、各部門の出演は何れも全国的の有名人名で人気沸騰、満員裡に終始した。

「日本の宴」は毎年一回開催され今や京都市行事の一つに数えられるが、主催の日本民主同志会中央執行委員長松本明重氏は稀に見る信念の人で、常に国家を思う情熱は激しく、数回に亘り南海の孤島に眠る戦没者の遺骨収集に向き、或は沖繩慰霊研修派遣団長として嘉数の丘の慰霊碑を建立するなどその善行は枚挙に遑なく、「日本の宴」も孤児の母救援志業として当日の利益金は総て之に当てられた。

松本明重氏は邦楽、特に琵琶に興味を持ち、又立志伝中の人として令名高く、幼にして両親を失ったあと筆舌に尽くせぬあらゆる辛苦を重ね、本年目出度遷厝を迎えて、現在数業務の責任者として良き秘書杉岡一彦氏と共に活躍されている。



謹賀新年			
〒160 日本芸術琵琶 柏 東京都新宿区西新宿七丁目一五 一ノ内 会員一同会	〒618 桜井旭会会長 秋元旭晨 大阪府三島郡島本町桜井四丁目 電話〇七五(九六一)五〇八ノ一 四三番〇	〒359 錦心流大館派琵琶 平井洲誠 所沢市日吉町一七ノ一三 電話〇四二九(二二)三一七五番	〒625 日本旭会 舞鶴琵琶協会事務所 高橋旭洋 舞鶴市朝日通五條東入 電話〇七七三(六四)〇五一八番
〒420 静岡県吟詠同志会副会長 伴野鶴風 静岡市沓谷三丁目一九三ノ二 電話〇五四二(六一)九四四番	〒164 物語琵琶 宗家 浅野晴風 東京都中野区中野二ノ二五ノ六 電話 自宅 (三八一)八九二番 (三八三)四七一三番	〒011 錦心流一水会秋田支部 星野雄水 秋田市土崎港中央四丁目 電話〇一八八(四六)三三三四番 九ノ二六	〒181 日本琵琶 三位研修同志会 東京都三鷹市上連雀二ノ一九一 電話〇四二二(四四)一四一六番
〒603 正派薩摩琵琶四明会 事務所 京都市北区平野宮西町六四 平井春嶺方 電話〇七五(四六二)一四二三番			

謹賀新年			
〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話 (六一)三六七六番 横須賀琵琶連盟会長 山田幻水	〒350 埼玉県川越市南通町一ノ一一 電話〇四九二(二二)四四六一番 熊木苳水	〒183 東京都府中市新町二ノ六八 電話〇四二三(六一)五六八四番 坂本錦道	〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番 筑前琵琶 藤巻旭鴻
〒369-12 埼玉県大里郡寄居町玉淀 電話〇四八五(八一)一七四〇番 大井錦淀	〒535 筑前琵琶日本旭会 大阪中央部旭会 塩谷旭洲	〒810 筑前琵琶博多旭蝶会 会主 嶺旭蝶 福岡市中央区春吉二ノ八一二 電話 (七六)〇三二〇番	〒249 錦心流琵琶教授 鉦水会 平野鉦水 逗子市桜山三ノ四ノ五三 電話〇四六八(七三)一二二〇番
〒603 京都琵琶協会 京都市北区平野宮西町六四 電話 (四六二)一四二三番			

謹 賀 新 年

〒173
東京板橋区板橋一丁目二十一番四号
電話 (九六一) 一一〇〇番

池 上 作 三

〒520
大津市逢坂一丁目二ノ三二
(蟬丸神社前)
電話〇七七五(二四)九三二八番

松 岡 旭 岡
伊 藤 旭 暢

〒544
大阪市生野区小路二丁目
電話〇六(七五三)〇〇三六ノ二番
(七五二)〇〇六六七五番

高千穂 旭 楓

〒537
大阪市東成区神路三ノ八ノ一八
電話〇六(九八)三三九一ノ一四
夜間〇六(九七二)二七七八番

榎 本 旭 風

筑前琵琶日本旭会
東大阪旭会会長

謹 賀 新 年

〒154
東京世田谷区太子堂二丁目二番八号
電話 (四一四) 六五七八番

宮 崎 直 二

〒238 自宅 横須賀市富士見町三ノ一七
電話〇四六八(二二)三七七五番
〒124 教室 東京都葛飾区堀切二ノ六〇ノ三
清和荘二階一五号
電話〇三(六九四)九五七九番

史 城 普 門 義 則

社団法人東洋音楽学会々員
邦楽木犀会相談役
琵琶楽鶴鳴会主宰

出張所 姫路市飾磨区構
(大西旭恵方)
電話 (二五) 五六四六番
出張所 兵庫県六栗郡安富名坂
(円山旭芳方)
電話〇七九〇(六六) 二二四〇番

支部 福岡市南区横手町三ノ一一ノ二
(久保田旭園方)
電話 (五九) 一五七一番

支部 長崎市上西山町九八
(副島旭仙方)
電話 (二六) 〇六五六番

本部 姫路市北平野南町六九二ノ一
電話 (八二) 一八三一番

〒670
清真流会員一同

西 川 旭 操

筑前琵琶日本旭会
清真流吟詠会本部

謹 賀 新 年	
<p>〒617 梅原旭濤 向日市西向日鶏冠井町山端 電話 (九三一) 一六九一番</p>	<p>〒608 錦心流琵琶 一水会京都支部 会員一同 京都市左京区下鴨蔦倉町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p>
<p>〒375 宗範四方田錦隆 群馬県藤岡市古桜町乙二四六 電話〇二七四(二二)〇二三七番</p>	<p>〒370-12 全朗協関東副部長 テイチクレコード専属 日本錦古流詩吟会長 宗家針谷錦古 群馬県高崎市岩鼻町二四七 電話〇二七三(四六)二〇〇六番</p>
<p>〒481-31 小野鶴彦 薩摩琵琶鶴彦会 浜松市横志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一</p>	<p>〒600 水也田流教頭 琵琶楽 琵琶講談 緑鷺齊 美登里進水 京都市下京区西新屋敷下之町 電話 (三四一) 一六七四番</p>

謹 賀 新 年	
<p>〒570 錦心流琵琶 一水会大阪支部 会員一同 守口市緑町土居団地一 小川吟水方 電話大阪(九九二)五六二五番</p>	<p>〒662 錦心流琵琶 一水会神戸支部 会員一同 西宮市羽衣町七ノ三四 三浦蓮水方 電話〇七九八(三三)五八八七番</p>
<p>〒651 久徳旭蘭 神戸市葦合区八幡通四丁目 電話〇七八(二二)一六一〇番</p>	<p>〒198 薩摩琵琶 錦水会 正絃会・四明会・さつき会会員 岡部錦蝶 東京都青梅市大門七八七ノ一 電話〇四二八(二二)四四五八番</p>
<p>〒601 琵琶三美会 會長 矢吹旭美津 田中鵬水 富山旭貴 西村旭富 一坊寺旭清 外門人一同 京都市南区吉祥院中島町 電話 (六九二) 〇一〇二八番</p>	<p>〒678 師範浜本旭好 相生市相生二丁目一四ノ一七 電話〇七九一二(二)五一八番</p> <p>〒653 師範田中旭昇 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五 電話〇七八(六七)〇〇一八番</p>

年 新 賀 謹

〒569
高槻市津之江町二丁目一二ノ三
電話〇七二六(七)六五八〇番

山崎光掾
山崎旭萃

筑前琵琶橋会宗範
大和流琵琶吟家元

〒420
静岡市西草深町二一ノ二〇
電話〇五四二(五三)一四七一番

赤心流鶴翁

吟詠
琵琶
赤心流

〒602
京都市上京区榎木町堀川角
電話〇七五(一一)四〇三三番

筑前琵琶
中島旭穂

〒573
大阪府枚方市上島東町四番

錦心流琵琶教授
広瀬綴水

年 新 賀 謹

〒343
越谷市大成町一ノ二三九二
電話〇四八九(八二)一二四二番(代)

鈴木流泉

日本琵琶振興会

〒651
神戸市萐合区上筒井五ノ四ノ二
電話〇七八(三二)一一六一番

宝塚花組
上原まゆり
(柴田旭艶)

筑前琵琶旭会
大師範
柴田旭堂

〒060-91
札幌市中央区南六条西七丁目
電話〇一一(五一)八三四八番

岳城流薩摩琵琶
広川岳楓

謹 賀 新 年			
<p>〒570 大阪吟水会 山口 北村 山田 偉津 山田 村田 吟清 北村 育子 桜田 靖水 金寄 甫水 小西 水 小川 吟水 守口市緑町土居団地一丁目 電話大阪(九九二)五六二五番</p>		<p>〒662 三浦蓮水会 西宮市羽衣町七ノ三四 電話〇七九八(三三)五八八七番</p>	
<p>〒790 佐藤晃絃 松山市柳井町一丁目 電話(二一)二三一七番 立花町三丁目八八七番 電話(四一)三八八七番</p>		<p>〒176 鈴木誉士 東京都練馬区豊玉北五ノ一一 芸友社 電話(九九一)〇三六三番</p>	
<p>〒790 関居庵 松山市立花町三丁目八八七番 電話(四一)三八八七番</p>		<p>〒164 仲川秀邦 東京都中野区中央一ノ三二ノ六 電話(三六一)七七四〇番</p>	
<p>〒589 吉井良三 高槻市南総持寺町 電話〇七二六(九六)八五一六番</p>		<p>〒435 柿沢篁峰 浜松市安松町六〇一 電話(六一)三五五四番</p>	
<p>〒176 日本琵琶楽協会々員 愛媛琵琶連盟顧問</p>		<p>〒168 竹下翠風 東京都杉並区下高井戸五ノ二二 電話〇二二(三〇三)五八九四番</p>	
<p>〒570 詩吟 蓮水会</p>		<p>薩摩琵琶 薩摩琵琶教授所 家元 都 錦穂 会員一同</p>	
<p>錦心流一水会</p>		<p>甲田勸水</p>	

謹 賀 新 年			
<p>〒160 押田旭窃 東京都新宿区三栄町一六 電話(三五二)四五九一番</p>		<p>日本民主同志会 中央執行委員長 宗教法人世界救世教 外事対策委員長 松本明重</p>	
<p>筑前琵琶日本旭会</p>		<p>自宅 京都市東山区祇園町南側 電話(代)〇七五〇七五 電話(五四一)〇七五〇七五 電話〇七五(五)〇九二〇四番</p>	
<p>錦心流一水会多摩支部長 各流派琵琶武絃会事務所</p>		<p>筑前琵琶橋会 押川旭葉</p>	
<p>〒184 伊藤磐水 東京都小金井市本町一ノ八ノ五 電話〇四二三(八一)三三四番</p>		<p>〒250-04 神奈川具足柄下郡箱根町強羅 電話〇四六五(二)二一一二番</p>	
<p>高橋蘇水</p>		<p>薩摩琵琶高昇流家元 泉勝院 峰口高昇</p>	
<p>〒040 高橋蘇水 函館市青柳町二六ノ一四 電話(二二)八三六五番</p>		<p>筑前琵琶橋会 法香久院 荒木旭媛</p>	
<p>〒520 戸倉旭嶺 大津市中央一丁目一番十号 電話〇七七五(二四)五〇六五番</p>		<p>〒606 京都市左京区岡崎徳成町一四 電話〇七五(七七)四〇一六番</p>	
<p>〒113 都派琵琶教授所 家元 都 錦穂 会員一同</p>		<p>〒248 鎌倉市鎌倉山一五五六 電話〇四六七(三一)一九七七番</p>	

京都琵琶協会の忘年会



十二月三日(水)午後二時嵐山渡月橋に集合した協会員峰口高昇、古谷竟水、戸倉旭嶺、安住旭康、水内煖水、牧 南水、矢吹旭美津、田中鵬水、馬場鴨水、荒木旭媛、梅原旭濤、旭濤会国友旭香、同渡辺旭寿、平井春嶺、同令室の内古谷、馬場、荒木、梅原、平井御夫妻の六名は釈迦堂まで散策し、参拜後、堂の裏側の池畔の真紅の楓を観賞してその美しさにしばし見惚れたが、忘年会開始時刻も迫ったのでその他の人の待つている嵐山中の鳥公園の料亭「錦」(にしき)へ歩を進めた。

「錦」の女将の口上に曰く。

洛西のみどころ嵐山に、錦といえる賄いの店あり。この屋は、嵐峽の流れの狭間に数寄屋をつくりて、京の情緒もゆかしく、野々宮にゆらぐ緑の若竹を短冊に仕立て、生ぐさをならべ、わび、さびの心にも通り溜色の箱形膳に、ならびなきくさくさを盛る。これぞ名にしおり桜宿膳なり。

春は花、秋は月、秋くれないに色どられ、緋毛織の床几の上での花見酒。こんな風情にと桜宿膳の名が生る。

夕暮れの渡月橋に、遠く近くひびく名刺の版木の音や川面を渡る瀬の音に、つれづれ交す嵐山「錦」での盃は、しばし吾を忘れて心にしおり桜宿膳なり。

地よきこと限りなし。

さてさてあるじは、店のおの子、おなごをそろえ、よろずたびお越しを、笑顔もてお待ち申しあぐる次第なり。敬白。と。

料理が出るまでに平井幹事から、「琵琶界発展のために私財もて尽された鈴木鉦次郎先生が、昨朝逝去されたので御冥福を祈る黙禱を捧げましょう」と発言あり、一同驚愕。黙禱す。

午後四時過ぎ待望の料理が運ばれたが、誠に珍らしい献立で一同舌鼓を打って食べたが食べ切れずに残す人も相当有った。例年と異なる会で、皆は飲を尽し、一年をふり返り、来年の飛躍を期し、午後六時半家路についた。

(幹事記)



わが師友を語る

老 公 子

河瀬碩水兄の思い出を語る事は老生にとり何にも増して心嬉しい事の一つでもある、それは彼が琵琶に魅かれひたむきに琵琶を愛し、死の直前まで楽しまれた事である。念願叶い一水会大阪支部長として就任以来(昭三七)文字通りの全力投球は目をみはるばかり、正に彼の面目躍如たるものがあった。さりながら好事魔多しとか、あの堂々たる巨体も病に

は勝てず就任以来僅か一年有余忽然として他界された。若き未亡人の歎きは如何ばかり察するに余りあり惜しい限りであった。本年十三回忌に当り未亡人より法要のお招きを受け、当時役員の内平田東舟君(東舟流会長、光山堂水と号し秋田大会に中西戎水氏同伴出演)と共に自宅へ参上二階に案内された。愛器の両側に錦心流琵琶碩水会と琵琶詩吟教授の看板が立てかけてあり生前の門下育成の熱意がうかがわれた。今頃は我が敬愛する河瀬君も天上にて好きな琵琶を弾じ、興いたれば得意の越中富山の民謡を、巨体を振りながら持ち前の美声で歌っていることであろう。合掌。

平 井 洲 誠

七五三美しく世相に逆ふも
苦のみのり勤勞感謝すがすがし
冬日中七十年の爪を切る
冬日あさる羽虫と老の恙なし
蟾螂の斧一と振りし焼かれけり

吉 井 良 三

弾き語る師の頬薄く紅さして
夢幻の境地に誘われし今
水打ちし如くにひそけき会場は
低き妖しき語りに酔いて

鈴木鉦次郎氏

錦心流琵琶鈴木鉦次郎(綿水)氏は十二月二日午前八時十五分心不全のため東京巢鴨の久保田病院に於て惜逝された。享年七十五。

氏は明治三十三年三月十二日東京に生まれ、大正十一年故小林浄水氏に入門、十一年三月奥伝、水号允許、十二年から松田静水氏に師事したが関東大震災で中断、その後低血圧症で倒れて琵琶界を引退したが小康を保ちつゝ琵琶吟詠界発展に力を尽くされ、数年前日本芸能顕彰会を創設して自ら理事長に就任し、莫大な私財を投じて大小の金盃や楯、トロフイなどを特製し、表彰状と共に琵琶吟詠界の功労者や関係団体に贈られ、その数無慮千数百点に及ぶ隠徳を積まれたのは万人の知るところ、最近初心者向きの安価な琵琶器や詩吟伴奏用楽器の創作を思い立ちその完成に力を注がれていたが、志半ばにして病勢悪化、入院加療二週間の甲斐なく遂に幽明境を異にするの結果となったのは返す返すも残念で痛惜に堪えず、御遺族の御悲歎は申すに及ばず我が斯界の大きな損失と云わねばならぬ。

翌三日密葬、十三日午後一時二時荒川区巢鴨六丁目の誓願寺に於て本葬が営まれ、政界財界人多数の外遠近の琵琶吟詠人の会葬者引きもきらず盛葬の裡に永別を惜しんだ。

謹 賀 新 年

日本旭会
師範
戸 田 旭 公
京都市下京区仏光寺通
電話〇七五(三五)一〇三九番

東 憲 水
〒537
大阪市東成区大今里
西一丁目一七ノ二〇
電話(九八一)四四一六番

北 中 旭 蝶
〒671-20
姫路市花田町高木一八ノ四
電話 姫路(二三)七一九五番

邦楽名絃会代表
天 風 西 郷 三 郎
〒156
東京都世田谷区経堂
電話〇三(四二八)三七ノ六
七四八三番

謹 賀 新 年

正派薩摩琵琶
正調詩吟 指南
穂 洲 最 上 十 太 郎
〒031
八 戸 市 内 丸 十 一
電話一〇七八(二二)八七五番

錦心流琵琶
牧 南 水
〒604
京都市中京区西ノ京
鹿垣町一
電話〇七五(八四)二九八九番

錦心流琵琶
北 尊 水
〒047-61
札幌市西区手稲イナホ六七
北山 明方
電話

植 村 寛 水
錦心流琵琶
〒569
高槻市津之江北町一ノ二三
電話〇七二六(八五)六〇五一番

法名壽蒼清徳鉦風居士。謹んで哀悼の誠を捧げ御冥福を祈る。(喪主長男実氏、北区田端町一五三、電話八二一六六六二番)

産経学園祭に琵琶演奏

九月十三、四、五の三日間東京第一生命ホールに於て京浜九学園の合同産経学園祭が開催され和洋音楽や舞踊等多種が公開されたが、その第一日目に水藤五郎氏が米人ロナルド・マッキンレー氏らと琵琶合奏をされた。マッキンレー氏は琵琶に志して五年、美事を撻捌きを披露された。

琵琶研修懇親会

十月十九日(日)屋西宮市楊嶽水氏宅。巴の前楊嶽水 吉野懐古 浅見汀水 高松城 高嶋晴水 夕方の雨 田中敦水 西郷隆盛 野尻振水 湊川の嵐 田中鯉水 耳なし芳一 三浦蓮水 羅生門 桃木耳水 絃野尻。

秋季法要協賛諸芸大会

十一月二、三の両日朝十時から滋賀県安土町慈恩寺浄蔵院大講堂で大阪琵琶同好会と蒲生郡仏教連合会共催の首記が開催され(二日)楠公菊水の旗 島津嶺月 米原嶺泉 鴨川の露 辻旭城 石童丸 石橋旭嶺 神崎与五郎 光旭仙 (三日)関ヶ原 石橋 伽羅の兜

辻各氏琵琶演奏の外両日各種芸能が披露され多数の参会者を喜ばせた。

京都琵琶協会十一月定期茶話会

十一月十五日(土)昼一時本部(平井春嶺氏宅)出席者 伊吹正陽、馬場鶴水、田中鵬水、梅原旭濤、矢吹旭美津、安住旭康、牧南水、古谷寛水、荒木旭媛、平井春嶺、植村寛水の諸氏集合、物故者慰霊演奏会開催の件その他を協議の後夕食を共にして解散。

日本芸術琵琶会十一月例会

十一月十六日(日)昼一時東京西新宿柏ビル。山崎錦幽氏 江戸日本橋 門琵琶演奏 狩野窪清 湖水乗切 近田邦雄 扇的 石田脩水 灰木 杉山旗水 修善寺物語 山崎錦幽 乃木将軍 高田宝水 夢 矢仲晃葉 吟詠 兩宮会長 平家物語、以上研修の後小宴に移り七時散会。次回は十二月二十一日(日)同所にて開催の予定。

武絃会 一水多摩支部合同研修会

十一月十六日(日)昼一時小金井市福祉会館、広瀬中佐 篠宮櫻水、紅葉狩 高杉洲靖 琵琶行 石井效水 本能寺 中村修水 小栗栖 伊藤馨水 恩讐の彼方へ 工藤慈水 城山 清水源城 花紅葉 伊集院鼓城 川中島 坂本錦道。以上演奏六時半散会した。

和鶴会の琵琶とおどりの会

十一月十九日(日)夕六時東京渋谷東邦生命ホール(五〇〇円)。羅殺の面 水藤五郎 羅生門 藤巻旭鴻 河中島 浅野晴風 山下晴楓 名月逢坂山 鈴木流泉 吟詠 鈴木吟子 金子旭昭 小督 津谷桜佳 うつぼ猿 新部桜水 藤波桜華 義士討入 村木桜柳 敦盛 一都錦穂 五位驚 水藤五郎 舞松賀藤雄 屋島懐古(録音) 水藤錦穂 舞永田咏混。この会は四十八年六月二十日開催予定のところ錦穂師急逝のため本日に延期されたもので当日の利益金の一部は身障者芸術活動基金に寄贈された。

第一回水藤五郎演奏会

十一月十九日(日)夕六時東京渋谷東邦生命ホール(五〇〇円)。市教育委員会、市文化協会共催、主管鉦水会(市文化祭参加)。平野鉦水会第十五回記念演奏会で一水会本部その他の後援により盛大に開催された。金剛石 九才少女四人合奏 菅公 今 川中島 樋口 石童丸 有野 五條橋 田中 桜狩 坂井田 本能寺 内藤 不如帰 佐々木 月下の陣 加藤 竜の口 川崎楚水 城山 坂井田政水 衣笠城 脇田湘水 白虎隊 大久保誘水 重衡 姉崎証水 別れの盃 樋口精水 小栗栖 本庄宵水 井伊大老 三門葉水 義士討入 会主 平野鉦水 俊寛 高橋曜水 六代御前 伊集院牙城 琵琶舞静の舞 鉦水会女流七人、立方四人 新撰組 小関香水、采崎統水 坂本竜馬 森松水 西郷隆盛 土橋虎水 明島 吉 石井桑水 霧の川中島 齊藤殊水 巖流島 秋山錦賜 吉野山懐古 青木町水 耳なし芳一 榎本山水 掛合勸進帳 松本孝水、

原、竹本、浜本 石童丸 宮垣 絃天津 荒城月夜の曲 宮浦 絃天津 舞扇鶴ヶ岡 鈴木 絃天津 別所 仏御前 木内 絃天津 木内 菅公 和泉 絃天津 花の義経 別所 絃天津 青柳 吉野山懐古 上畑 絃西川 天津 神風特攻隊 青柳 絃天津 鈴木 秋風故郷 大西 絃西川 梅原 高千穂 曾我兄弟 竹本旭将 絃西川 伊藤 高千穂 花の白虎隊 石橋旭嶺 (第二部) 小栗栖 高千穂旭楓 大楠公 寺尾旭吉栄 未練西行 大石旭蓮 絃末広 太田道灌 西川旭操 絃西川 天津 安宅の関 渡辺旭寂、榎本旭風、塩谷旭洲 絃田中、浜本 あつもり 会主 天津八千代 絃西川、伊藤、竹本 大石主税 末広旭馨 若き敦盛 梅原旭濤 絃西川 伊藤 坂崎出羽守 伊藤旭暢 絃西川 二〇三高地 田中旭昇、浜本旭好 ふるさとの心 竹本、八木 絃和鶴会。外に吟詠十三。

板谷 鼓藤舎 羽衣 押川旭葉、林田旭城、佐藤旭天紅、田子旭園 絃井坂、友田、板谷 小野、江木 琴奥村、尺八西口 安宅 山崎 旭萃 千代の寿 三木、佐藤、林田、友田、板谷、江本、佐伯、井坂、田中、久徳、島田 木村、矢吹、小野、山崎、菊地、押川、田子 琴奥村、三枝軒屋、尺八西口。華やかな裡に終始満員の盛況を呈し此間橋宗家を始め久徳正彦、西村旭一声、鈴木蒼士、堀田旭甲五氏の挨拶と祝詞があったがその中のお一人が山崎師を賞讃するあまり前後を顧みない不穏当な言辞を弄して聴衆の一部に不快の念を与えたようであったのは折角の大会に汚点を印し同席の山崎師も無不本意な感を持たれたと考えられ残念であった。

堂。連弾伴流弾法 錦幽、錦道 九連城 富田晴萌 利休の最期 山崎錦幽 墨絵 中村 晃憲 修善寺物語 杉山雅俊 城山 清水源 城 桔梗の旗 伊藤馨水 山科の別れ 篠宮櫻水 川中島 伊集院鼓城 異国の丘 井合松映 志士横川 田戸桜丸 安宅の関 坂本錦道 外に伊集院一城。このあと懇親宴を開いて散会、尚十二、一、二月は冬期休会とし三月から再会することになった。

山崎旭萃リサイタル

十一月二十三日(日)昼一時大阪難波高島屋七階ホール、司会笹谷清子 NHR アナウンサー (二五〇〇円)。曲垣平九郎 山崎旭萃、マクレウス 琵琶山崎 尺八星田 フルート岡、ハープ村島 琵琶組曲義経絵巻(一)大物の浦 木村旭勝 (二)舟弁慶 寺尾旭吉栄、三木旭照 (三)安宅 久徳旭蘭、矢吹旭美津 (四)義経 丹生谷旭春、友田旭泉 (五)弁慶 渡島旭鶯、江本旭清 (六)静 木原旭邦、板谷旭邑、水谷旭舟、押川旭葉 茨木 山崎 絃矢吹、菊地、

十一月二十三日(日)正午埼玉県寄居町会館、主催町文化団体連合会絃友会(町産業祭協賛生憎くの降雨にも拘らず満員の盛会であった。白虎隊 川崎淑水 紅葉狩 根岸光治 送別 一町田路加 大高源吾 齊藤桜玲 常盤御前 一原田曲水 安達ヶ原 会主大井錦定 (以下来賓) 耳なし芳一 木原綾子 川中島 橋本草水 乃木将軍 松本孝水 聞けわたつみの声 中村錦道 舟弁慶 山口速水 松の廊下 原田刀水。外に詩吟一題。

鉦水会琵琶演奏大会 十一月二十四日(日)朝十時逗子市立図書館ホール、市教育委員会、市文化協会共催、主管鉦水会(市文化祭参加)。平野鉦水会第十五回記念演奏会で一水会本部その他の後援により盛大に開催された。金剛石 九才少女四人合奏 菅公 今 川中島 樋口 石童丸 有野 五條橋 田中 桜狩 坂井田 本能寺 内藤 不如帰 佐々木 月下の陣 加藤 竜の口 川崎楚水 城山 坂井田政水 衣笠城 脇田湘水 白虎隊 大久保誘水 重衡 姉崎証水 別れの盃 樋口精水 小栗栖 本庄宵水 井伊大老 三門葉水 義士討入 会主 平野鉦水 俊寛 高橋曜水 六代御前 伊集院牙城 琵琶舞静の舞 鉦水会女流七人、立方四人 新撰組 小関香水、采崎統水 坂本竜馬 森松水 西郷隆盛 土橋虎水 明島 吉 石井桑水 霧の川中島 齊藤殊水 巖流島 秋山錦賜 吉野山懐古 青木町水 耳なし芳一 榎本山水 掛合勸進帳 松本孝水、

三位研修同志会月例会

十一月二十三日(日)昼一時三鷹市上連雀公会

十一月二十三日(日)昼一時三鷹市上連雀公会